

長野南高校存続について

提出者

長野県長野南高等学校の存続を願う会

【15歳人口増加No.1】

「第3区・4区の人口動向については、第4区の減少率のほうが大きい。としていますが、これまでデータで示し、述べてきたように、長野南高校のある地元更北・川中島地区は平成17年から平成31年にかけて、他の地区の中学卒業者が減少する中、唯一増加が見込まれる地域です。県教委は「必ずしも中学校卒業者数の多いところへ配置するという狭い範囲で考えるのではなく」としてはいますが、4校ある高校をそのまま存続する予定の*須坂市よりも多い人口規模は「狭い範囲」と無視できるものではないと考えます。更にいえば、**人口57,000人の人口を抱える地域に高校が1校も無い地域が県下にあるでしょうか。**地域人口の動向、規模からも、この地域に高校が配置されることは適正であり、必然ではないでしょうか。

資料①

	平成17年度	平成31年度	増減	増減率
更北・川中島	628	678	50	107.96%

資料② H17.4 現在各地区の人口に対する高校数状況

	須坂市	更北・川中島地区	篠ノ井地区	松代地区	千曲市	坂城町
人口	53,871	57,579	41,117	19,824	64,594	16,775
学校数(H17)	4	1	2	1	2	1
人口/学校数	13,468	57,579	20,559	19,824	32,274	16,775

●県教委案

- ・須坂市よりも人口の多い更北・川中島より高校を無くす
- ・57,000人の人口を無視



これが適正配置なのか？

- ・旧4区は流出が多い→人口に対して旧4区の定員が少ない。
(工業等の専門校が無く、商業も松代だけでなく長野商業にも通いやすいことを付け加えておく)

旧4区に学校が無いから流出しているのではないのか！

旧4区に学校を作るならまだしも、普通校2校廃校？

注:参考資料 旧通学区別入学者流入表(全日制)参照

【第2区生徒数動向】(平成17ー平成31)

- ・須坂地区は平成17年から31年で115人の減少となり、現在より80%まで落ち込むことが分かる。今後も宅地造成計画等からいっても増加傾向に転じるとは想定できない
- ・平成17年度入学生の流出入について、須坂地区から第3区へは60人、3区から須坂地区へは280人で圧倒的に長野地区から須坂地区への流入が多い、これは平成17年現在、旧長野市とその周辺地区の高校数以上に生徒数が多いことを示している。今後生徒減少によって須坂地区への流入は減少すると見ることができる
- ・中野・高山・山之内の15歳人口減少とあいまって、今後北部方面から須坂地区への流入も減少することがうかがえる

資料③ 第2区15歳人口増減数と増減率(提供:長野市教委 H17.4.1 資料から)

	平成17年度	平成31年度	増減	増減率
須坂市	576	461	▲115	80.03%
旧中野市	477	404	▲73	84.70%
小布施町	122	108	▲14	88.52%
高山村	112	63	▲49	56.25%
山ノ内町	144	105	▲39	72.92%
2区全体	1431	1141	▲290	79.73%

- ・旧2区は流入が多い→人口に対して学校(定員)過剰。
- ・旧3区は現状では良いバランス
但し、平成16年度と比べると2クラス減少させている。
流出・流入共に1番多い
(参考:一部の進学校と呼ばれる学校で6クラス以上の定員を維持)

注:参考資料 旧通学区別入学者流入表(全日制)参照

推進委員には下記を良く理解して、判断をお願いします。

1. 長野県高等学校改革プラン検討委員会 最終報告（抜粋）

少子社会における高校教育の整備充実に向けて

（1）長期プランの必要性と長野県の特徴

【地勢や地理的条件に配慮する】

大切になるのは、長野県の地勢や高校配置の地理的側面への十分な配慮である。本県は広大な県域を有する上、山間部が県域全体のなかの約80%に達するという特性がある。高校の配置を考える際には、地勢、学校の立地環境、近接校との距離等のきめ細かい検討が不可欠になる。

2. 「高校改革プラン推進委員会」への検討依頼事項の中に基準として【その他の配慮すべき点】があります。高校の適正な配置に関しては【その他の配慮すべき点】にしか選ぶ基準がありません。

■ ①人口動向

■ ②学校選択の際の地域間移動

■ ③地勢・地理的条件

■ ④隣接の高校への距離

① 更北は旧1-4区でNo.1です。

② 県教委は松本市や長野市は交通の便が良いと討論会で発言しています。現在でも長野南高校へは全体の20%を超える生徒が公共交通機関を使用して通っています。ちなみに県教委の案の中で出ている松代高校は16.4%でしかない。

（もし、問題があるとすれば、なぜこの場所に高校を作ったのか？設置権者としての県教委並びに高校教育課の失策）

③ 山間地でも無く、駅からさほど遠くもなく（今井、川中島）、人口増加や商業の発展も見込まれている。県教委は犀南地区において生徒は「どこにでもいける」という解釈ですが、「どこからでもこれる」便利な地理的条件である。

④ 距離的バランスからすれば、適正配置としかいいようがない。

近接していたほうが良いという解釈ではないはず

隣接高校との直線距離 松代：5.6km 篠ノ井：3.6km 長野西：6.3km

長野東：7.45km

因みに須坂駅を基本とした須坂地区各高校との直線距離

須坂：0.87km 須坂商：0.38km 須坂園芸：0.38km

須坂東：1.23km

旧3区に於いても長野商業・長野西・長野高校・長野吉田・他市立等も近接

結 論

● 57,000人の人口を抱えるこの地区に高校は必要です。

- ・ 数字を見る限り、旧4区の普通高校削減は学校数・配置等を考えると理解しがたい。更に、松代への統合などあり得ない。

「高校改革プラン推進委員会」への検討依頼事項を自ら守ろうとしていない。特に

- ①人口動向を完全無視（15歳人口が増えようが、またその地区に人口が多くいようが）
- ④隣接の高校への距離

何を基準に 統廃合が進められていくのか全く理解ができない。

- 是非他地域・他校の状況と比べて頂きたい。

最後に・・・

- なぜ、他ではなくこの地に長野南高校が創設されたのか。それは……
- 更北・川中島にはそれだけの人口が有りながら、この地に高校が無かったからです。
- H17-H31 人口の増加は2・3・4区ダントツの1位。ほとんどの地域がマイナスです。
- 人口の減少が多く、複数の高校がある地域から削減するのが当然です。
- なのに！なぜ、長野南高校が無くならなければならないのでしょうか。

【9月16日県教委との討論会后、我々が出した質疑にたいしての見解】

Q「長野南高校の存続を願う会」からの質疑

「(更北・川中島では、) H17-H31 人口の増加は2・3・4区ダントツの1位。ほとんどの地域がマイナスです。人口の減少が多く、複数の高校のある地域から削減するのが当然」ということについて

A県教委見解

県立再編整備候補案では、中学校卒業生数と区間流出入による高校への入学者数の動向をみています。県立高校として、通学区全体を見渡した高校の配置を考えています。

ひとつの市町村における、小学校や中学校の配置であれば、義務教育として、多くの就学児童・生徒の多いところへ学校を配置するということが考えられますが、高校は、必ずしも中学校卒業生数の多いところに配置するという狭い範囲で考えるのではなく、12通学区制から4通学区制に拡大され、高校の選択肢が拡大していることや、他区からの流出入を含めて、通学区全体のバランスを加味していく必要があると考えています。

参考資料

H17.4 現在 2～4 区の高校数状況

		2区	3区	4区
		山之内中野須坂	長野北部	犀南～坂城
平成17年		1,431	2,897	2,182
平成31年		1,141	2,682	1,838
増 減		▲ 290	▲ 215	▲ 344
減少率		79.73%	92.58%	84.23%
県立高校数		7	9	7
改革案高校数		6	9	5
H31 生徒／ 高校		190 人に1校	298 人に1校	368 人に1校
参 考	市・私立		5	1
	高専		1	

旧通学区別入学者流入表(全日制)【抜粋】平成17年度流入表

旧2区 1,186 人

旧1区	旧2区	旧3区	旧4区	旧5区	流出	流入
33	997	139	6	5	189	417
2.8%	84.1%	11.7%	0.5%	0.4%	15.9%	35.2%

旧3区 1,994 人

旧1区	旧2区	旧3区	旧4区	旧5区	流出	流入
23	324	1,363	262	13	631	623
1.2%	16.2%	68.4%	13.1%	0.7%	31.6%	31.2%

旧4区 1,698 人

旧1区	旧2区	旧3区	旧4区	旧5区	流出	流入
2	15	372	1,174	124	524	363
0.1%	0.9%	21.9%	69.1%	7.3%	30.9%	21.4%

【生徒数の状況】

- ・ 第4区の中学卒業生数は、平成17年の2148人に対し、平成31年には1830人となることが予想される。318人の減少でおよそ85.2%となる。
- ・ 高校の数は、県立7校、私立1校あり、千曲市、松代周辺の高校では下減規模を下回ることが懸念される。
- ・ 中学校卒業生数は特に松代・千曲地区での減少が顕著である。平成17年度から平成31年度では松代では202人が99人と103人の半数以下に減少、千曲市では682人が540

人と 142 人の大幅な減少が見込まれる。それに対し更北・川中島地区は微増傾向にあり、篠ノ井西部も宅地造成などにより人口増加は十分検討できる。

- ・ 第 3 区と 4 区間の流出入は県内でも最も多く、専門科を除いて平成 17 年度入学生では、第 3 区から第 4 区へは 219 人、4 区から 3 区へは 263 人の流出入があり、同一の通学圏とみることできる。特に、もともと犀川以北の生徒が犀川以南の学校へ行けなかった過去を振り返れば 3 区から 4 区への流入数は将来的にも増加傾向と推定できる。

第 4 区 15 歳人口増減数と増減率（提供：長野市教委 H17.4.1 資料から）

	平成 17 年度	平成 31 年度	増 減	増減率
更北・川中島	628	678	50	107.96%
大 岡	5	8	3	160.00%
篠 ノ 井	450	385	▲ 65	85.56%
信 更	34	8	▲ 26	23.53%
松 代	202	99	▲ 103	49.01%
千 曲 市	682	540	▲ 142	79.18%
坂 城 町	181	120	▲ 61	66.30%
4 区 全 体	2,758	2,299	▲ 459	83.36%

長野南高校への主な 3 区内中学からの生徒数流入

中学校名	長野南高校進学生徒数			計
	1 年	2 年	3 年	
(在籍数)	246	240	213	699
裾 花	23	13	11	47
犀 陵	12	10	6	28
3 区合計	64	46	38	148

常に増加！ 更北・川中島

【長野市発表長野市人口動態より】

【平成 13 年 地区別人口】

市街地の第一、第二、第四、第五地区で減少するなか、第三地区は微増となった。市街地周辺の古牧・吉田・大豆島・若槻地区では大幅に増加した。これら増加地区の外周にあたる長沼・浅川・小田切地区および、篠ノ井の一部の地区、松代・七二会・信更地区で減少している。また、若穂の一部の地区、**川中島・更北地区は昨年に続き高い増加**となった。

【平成14年 地区別人口】

市街地の第一、第二、第三、第四地区で減少するなか、第五地区は微増となった。市街地周辺では芹田・古牧・若槻・安茂里地区では大幅に増加したが、吉田地区は大幅に減少となった。これら増加地区の外周にあたる地区では、長沼地区が微増となったが、浅川および、篠ノ井の一部の地区、松代・若穂・七二会・信更地区で減少した。また、川中島・更北地区は昨年に続き高い増加となった。

【平成15年 地区別人口】

市街地の第一、第二、第四、第五地区で減少するなか、第三地区は微増となりました。市街地周辺では芹田・古牧地区は微増、若槻・安茂里地区は大幅に増加しましたが、三輪・浅川地区は大幅に減少しました。また、長野管内では、昨年の増加から一転し、減少となりました。長野管内以外では、篠ノ井・川中島管内で大幅に増加し、若穂・更北管内も増加となりましたが、松代・七二会・信更管内で減少しました。

【平成16年度 地区別人口】

市街地の第一地区は減少、第二・第三地区では微減の中、第四・第五地区は微増となりました。市街地周辺では大豆島・若槻地区は増加、古里・柳原・安茂里地区では微増となりましたが、三輪・浅川・長沼・小田切地区は減少、芹田・古牧・吉田・朝陽・芋井地区では微減となりました。篠ノ井管内は増加、川中島・更北管内で微増となりましたが、七二会・信更管内は減少、松代・若穂管内では微減となりました。

○更北・川中島は4年連続増加しています。13年度の昨年に引き続きという一文も考慮すると5年連続増加です。更に隣接する篠ノ井地区も近年増加傾向を読みとれます。

○松代・七二会・信更管内は4年連続減少です。